

週寫眞 報

編輯局報情
第七十號四百三第・日二十月一

土地改良で食糧増産だ



昭和十九年一月二十日 第三四四號 毎週日曜日発行 第三四四號



飯の中にいまだ脱せざる穀粒あるが如きは手を以て殻を去つて食せよと、道元禪師は、足らざるをいひ、節するを知らざる者へさとされた

開や買出して自分たちだけ豊かに食べたがる人たちに日本の有難さ、良さが、味はへるだらうか凍土に立ち、濕田に入り、汗と泥土にまみれて食糧増産をつぶける農村の現実を食事のたびにしみじみと味はつてみることで食物のことは、それから話にしよう

「時の立札」は艦へ轉載その他に御利用下さい

忠魂に我等おくれじ

タラワ、マキン守備隊玉碎す



大本營発表

(昭和十八年十二月二十日十五時十五分)

「タラワ、馬及び「マキン」島守備の帝國海軍陸戦隊は十一月二十一日以來三千の寡兵を以て五万余の敵上陸軍を邀撃、熾烈執拗なる敵機の銃撃及び艦砲射撃に抗し、連日奮戦、我に倍する大損害を與へつゝ、敵の有力なる機動部隊を誘引して友軍の海空作戦に至大の寄與をなし、十一月二十五日最後の突撃を敢行、全員玉碎せり
指揮官は海軍少將柴崎憲次なり
なほ兩島に於て守備部隊に終始協力奮戦せし軍屬約一千五百名もまた全員玉碎せり

↑
最前線の柴崎少將を偲ぶ

藤田嗣治畫

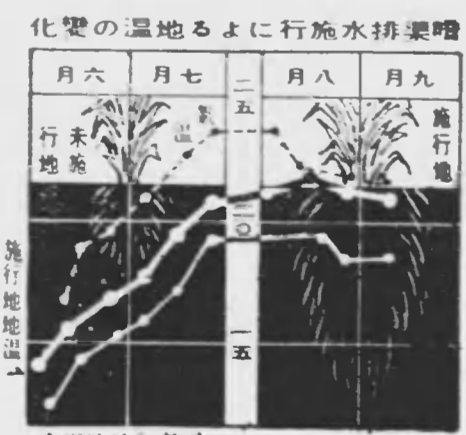
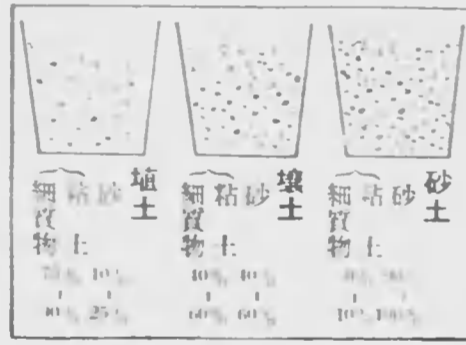


土地改良による 三百万石の増産

土地改良について どうすれば よい土地と なるか

土地改良といふのは、いろいろ自然の条件で作物の成長に適さない土地に人手を加へて、作物がよく出来るやうな土地にあらためることです。作物がもつとれたかに重なるやうにするため、いはいは土地の外科手術なのです。では、どんな土地にこの手術をしたらいいのか、といふことになると、そのまへに作物と土の関係といふことについて、或る程度知つておかなければならぬ。

土の性質は、土中の養分はどうかして作物の根から吸収し上げられてゆくかといひます。それは土の中にあるバクテリア(細菌)の作用によるのです。つまりこの細菌が人間のまたたいた肥料などを分解して、根が吸収し上げ易いやうにしてゐるのです。それでこの細菌が土の中で生き易いやうに、空気の流通をよくし、また地温を上げれば、バクテリアの活動が活発になつて、肥料の分解もよくなり、作物はどんどん養分をとることが出来るやうになつて、よく成長することになります。



土の性質は、土中の養分はどうかして作物の根から吸収し上げられてゆくかといひます。それは土の中にあるバクテリア(細菌)の作用によるのです。つまりこの細菌が人間のまたたいた肥料などを分解して、根が吸収し上げ易いやうにしてゐるのです。それでこの細菌が土の中で生き易いやうに、空気の流通をよくし、また地温を上げれば、バクテリアの活動が活発になつて、肥料の分解もよくなり、作物はどんどん養分をとることが出来るやうになつて、よく成長することになります。

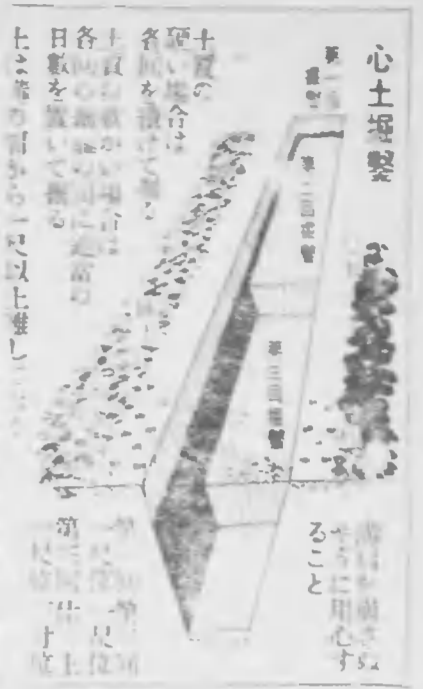
また、この隙間がひろ過ぎるときは、他方から隙間のせまい上をほこんで来て、適度にまぜ合せ、作物の成長に適するやうな土地につくりなほすと、今まですぐ流れ去つてゐた水分や養分もとどまり、空気の流通も適度になつて、作物の生育がよくなつてくるのです。即ち、この土の性質をよくしらべて、それぞれの場合に應じ、以下に述べるやうな(暗渠排水とか、客土、また床じめ等)を施すのが土地改良なのです。

どんなことがあつても、外米は輸送船に積まないう。食糧は自給でゆかう。これが今年の食糧事情を最もはつきりと説明する言葉です。昨年朝鮮が不作でしたから、朝鮮米の内地移入ができませんでした。これまで少くとも五百万石以上も移入されてゐましたから、大東亞戦争以後、幾分移入が減つたといへ、一石の米も移入できないとなれば、大きな影響でした。それでも、わが軍の善戦勇戦のおかげで、貴重な船前に不足分の外米を積んで補ふことができました。その際にも、戦力増強を妨げないやうに苦心に苦心を重ねたことはいふまでもありませんが、ともかく、配給米に外米が混つてゐたことでは分るやうに、相當量の外米が輸入されてゐました。不足した外米を輸入してなどといふやうな甘い考へ方は、今年も断じて許されません。木の根を喰ひ、草の葉を食へても食糧は自給し、貴重な船を浮かせ、飛行機と兵器として前線に送りどければなりません。これが戦時配置について一億の責務であり、心構へであります。さて、こゝで米の需要を考へますと、これまでの内地の米の消費量は、約八千万石といはれておりました。その後の人口も増加し、事變から大東亞戦争へと戦局が進んだので、軍需米が増え、労働動員も強化されましたから、労働者が増大し、殊に特配を必要とする重要産業の労働者が増大したので、需要量は増加するばかりです。これは、直接戦力の増強のための努力で、元氣一杯働いて貰ふために、ぜひとも確保せねばならない需要です。農家の保有米は、自家保有量が定められてゐますが、そのほかに戦時外の種や雑穀などの手持ちもあることだし、現在の情勢からいって、なほ一段と節約し、供出にふりむけて戴きたいのです。このために供出の方法も今年も改め、目下、盛んに農家から供出を求めてゐるわけで、計畫通りに供出されてこそ搖ぎない戦後の食糧配給が固められるのですから、協力を切望してやみません。次に政府の管理米ですが、そのうち、都道府県配給用は、政府から地方の食糧管理に拂下げ、

これが一般家庭に配給される分です。この配給の基準は昨年通りに維持される方針です。同じく加工用の酒造米は、すゝみ思切つた削減を加へてゐますし、味噌製造用は、味噌が蛋白質の大切な給源でありますから、少くとも昨年程度は維持される方針です。以上だいたい述べたやうに、需要と供給の検討しても、しかも昨年度より少し増えてゐる有様です。これに對して供給の方では、内地米の最近豫想收穫高は六千二百五十五万石で昨年の實收高に比べ、三百五十万石ほどの減收となります。朝鮮米の豫想收穫高は、一千八百七十七万石で、その作況は、凶作の昨年をうけただけに、大いに期待されてゐましたが、二千万石を割り、昨年よりも三百万石程度の増收にとどまりました。このほかに、雑穀や諸の作況は昨年より良く、十九年度の豫想收穫高は、相當の内地移入が朝鮮に期待できませう。粟米は、昨年の第二期作が減收でしたが、今年の第二期作に大いに力を入れるなどして、昨年よりやゝ悪いけれども、大差ありません。これに甘藷、雑穀を増産して補ひをつけるやうに努めてゐます。このほかに、主要食糧は米であるといふ舊來の考へ方を打破して空襲した後は、一億七千六百万石を豫想されましたが、一億四千万石に落付き秋馬鈴薯は三億八千万石の實收がありました。そのほか關東以北に收穫される春馬鈴薯にいま大いに努力してゐますから、相當期待されます。不足の分は滿洲國から直接糧穀の輸入を仰ぐのですが、その滿洲國の作況は近年になく良く、收買も調子よく行はれてゐますから期待されます。しかし、私たちが滿洲國に負けた食糧増産の第一、第二次計畫に次ぐ増産計畫で、食糧増産に努めなければなりません。そのためには、國民は大豆でも芋蜀黍でも何でも食べて腹ふ決意と、一粒の米も大切にすることへで第三年に突入しませう。それが暗渠排水に、客土に、雪や土にまみれて散開せられる農家の努力に努むる途です。

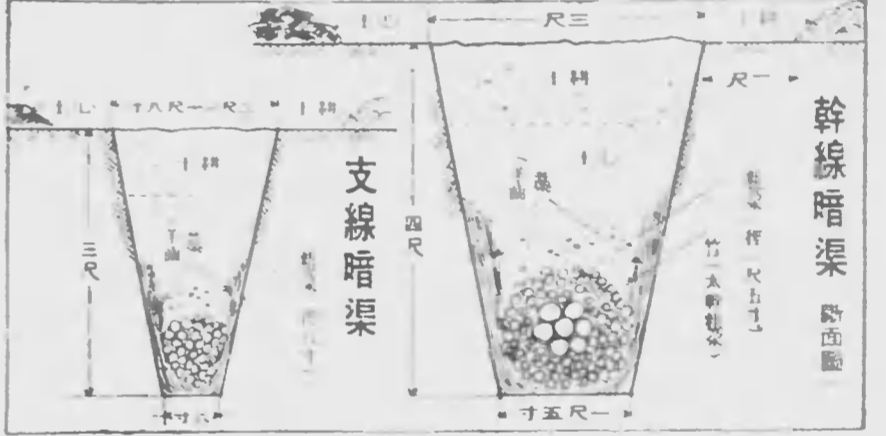


なんこ過濕田は折角の地土を殺して使ふな
ふやうなるものだ。土地改良の十分に分生に
しては使はれず、収穫もつぐも増すのだ。



(圖五第)

尺五寸と決めて差支へりません。幹線と支線は、上流端から下流に向つて百分の一、十間に二寸)から五分の一(十間に一寸)の割合をつけて、支線へ通す。排水口からは、排水口から始めて幹線へ進み、幹線から支線へ通す。この時、排水口から心土を六、七寸づつ他の側に掘り上げ、三回ぐらゐ



(圖六第)



(圖九第)

埋込み これは埋込みの場合とは反対に支線の上流端から始め、先づ破用用の葉を一握りづつ、根元を左右互ひ違ひに、厚薄のないやうに敷き(第六圖)竹粗葉、土管などを伏せ、再び葉を敷ひます。この際、土管、竹等のき目は特に青松葉等でよく敷ひ、流水の役目をさせます(第七圖、第八圖、第九圖)。竹管の場合は第十圖)このやうに、一きはり太い竹環でつなく(第十圖)敷きます。水漏れの恐れ、とくに地盤が下がらないやうに十分積み重ねてから直ちに掘を掘つけ、周囲を良質の粘土で踏み締め、上下流には三、四本づつの上管を結び、埋戻しも良質の粘土でやりませ(第十一圖)

(圖八第)



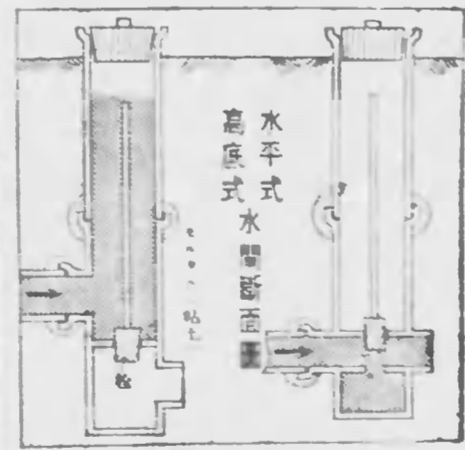
(圖十第)

埋戻し 材料を埋込んだら必ずその日のうちに第一回の埋戻し(厚さ四、五寸)を行ふのです。その方法は、材料の両側へ土を少しづつ入れ、材料が動かないやうに両足で十分ふみ固め(第十二圖)、次に二、三寸厚さに土を全體に入れ、元の地盤と密着するやうに踏み固め、溝が半分ぐらゐ埋つたら、そのままた二、三日おき、田面の乾き丁合や水門の状態などをよく調べ、異状がなければ残りの埋戻しをやりませ。林行後はかうした注意が必要。暗渠排水の事は、やると耕地の状態が急に変るから、耕作の方法や肥料のやり方は注意しなければならませんが、水門の管理は特に重要で、これは特にその土地の性質等に明るい人が管理し、必ず勝手に開閉しな



(圖十一第)

いことです。水門の栓を閉める場合は上流から下流に閉め、開ける場合は下流から上流に開け、水門に水圧が加はらないやうに注意しなければなりません(第十三圖)。用水の十分な土地ではなるべく早く栓を閉め、地下水位を高めて代掻にさしつかへないやうにし、稲作中は生育の状況により、時折り水門を開けて地下水を搾り出して、地温を上げ、湿かい用水や空気を土壌中に浸み込ませて暗渠排水の効果を上げることが肝要です。地下水のため肥料の分解を妨げられてゐたところでは、肥料の分解が促され、土の中に蓄へられてゐた肥料分が有効になるから、二、三年間は相当加減して窒素肥料を與へないと出来過ぎになることがあります。



(圖三十第)

(圖二十第)



土地改良で
三百万石を増産だ



土地改良で 三百萬石を増産だ 資材も労力も配備された

何としてでもやりぬかうと、いま全国に展開されたこの土地改良事業には、いふまでもなく相當の費用や資材や労力が必要だ。

だが今や食糧増産は一步も遅くことの出来ない重大な一線を確保せねばならないところまできてゐるので、これをやりぬくためには少くも、この不便不利があつても、粗朶、竹、藁など地元で間に合ふあらゆる材料を生かす、簡易暗渠を目標に農家の創意と工夫を生かして工事を迅速に完成させることだ。

完成しなければなりません。そのためには政府も二億六千九百萬圓の補助金を出したり、土管會社にも行炭の特別配給の特典の手配、或いは國有林の粗朶、竹の無償供與等と、あらゆる努力をはらひ、労力も少國民、學生生徒、婦人團體等の動員、或ひは都市からの援軍派遣等と眞に官民一體、総力を挙げてその完成に邁進を續けてゐるので、資材不足を克服して土に挑むこの戦ひに勝ちぬくことこそ食糧増産の任務です。



不足勝ちな資材も工夫で克服して完成しよう、神奈川県では土管會社の管製機を借用して、土管現場にもつた。一管一管、土管は、土管會社の管製機でつくられてゐる。しかも、持機は、土管會社の管製機でつくられてゐる。しかも、持機は、土管會社の管製機でつくられてゐる。しかも、持機は、土管會社の管製機でつくられてゐる。



粗朶、竹、藁など地元で間に合ふあらゆる材料を生かす、簡易暗渠を目標に農家の創意と工夫を生かして工事を迅速に完成させることだ。

ヨイコ達の肩が土地改良工事に動員された。學生の腕も、女達の肩も、足も動員された。一途に食糧増産をめざすこの緊急工事を完成しよう。



るびのは渠暗の産増に地大の雪

野平狩石道海北



鉛色の空が切れても、風花がきびしく頬を
たたく。いつもより早く訪れた雪は二尺に
近く、気温は師走の中頃で、もう零下十度
に近いが、増産にむかふの努力を続ける
こゝ北海道札幌市東区の人達は、この雪
に、この寒さに、いま一徹が飛はねばなら
ぬ職ひを黙然と挑んでゆく

銅製品献納



響くなげ深い日本の兵隊さんのお役に立つこと
はないかと、南スマトラの小さなカンボン(村)では、
いろいろ考へた末、戦争に必要な銅製品をつつか
献納して協力しました。撮影 川島秋雄報道員

働くビルマ女性



日本のお姉さま方に負けず働きます。これが総動
員配置についたビルマ女性の決意です。ペー・モウ夫
人を先頭に、婦人奉仕隊や救護隊が活躍してゐる一方
ではあらゆる職種に女性が進軍してゐます

大東アツ子は手をこまねない



これか日本の兄ちゃんの調査だよと、ボルネオのバ
ンジエラマン第一普通小学校のヨイコ達は、内地の
ヨイコ達から送られた贈り物かへて大喜び。大東アツ
のヨイコはみんな仲よくしませう。撮影 ボルネオ新聞社

放送戦にも勝利



「折様お元気ですか」マライ放送員の日本語もすつか
く扱つてきてきました。更に昭南放送局の弟分がク
アランプールに新らしく開設されました
すぐれた技術で、精巧な機械をくみ立て、すつかり

共榮園だより



★表紙
風をあげて展開された土地改
良工事には、多量な水も必要
といも若きも女も子供も、お
るりばたから、飯を、シヤベ
ルを採つて起つた。東北、北
海道の水田に雪を除き、飯も
はねかへす程かん／＼に凍て
た大地に挑むその開墾。たい
明日の増産を旨とする努力に、
音々と工事は完成されてゆく

わが方の手ででき上つた新放送局こそ、科学日本の輝
く大戦果です
敵のデマを粉碎し、大東アツの各民族の心を一つに結
ぶ電波の力は、日にこ見えませんが全く力強く頼も
しい限りです

⇒ 明るい放送局から正しい報道が送られる
⇒ 内地からの交換放送に大東アツ子はきき入る
⇒ インド人と中国人の女子放送員が仲よく初放送
撮影 交洋隊軍報班員 木下陸軍報道員

昭南日報

大東アツ戦争漫画日記



チヤチル島島む

家畜大増産



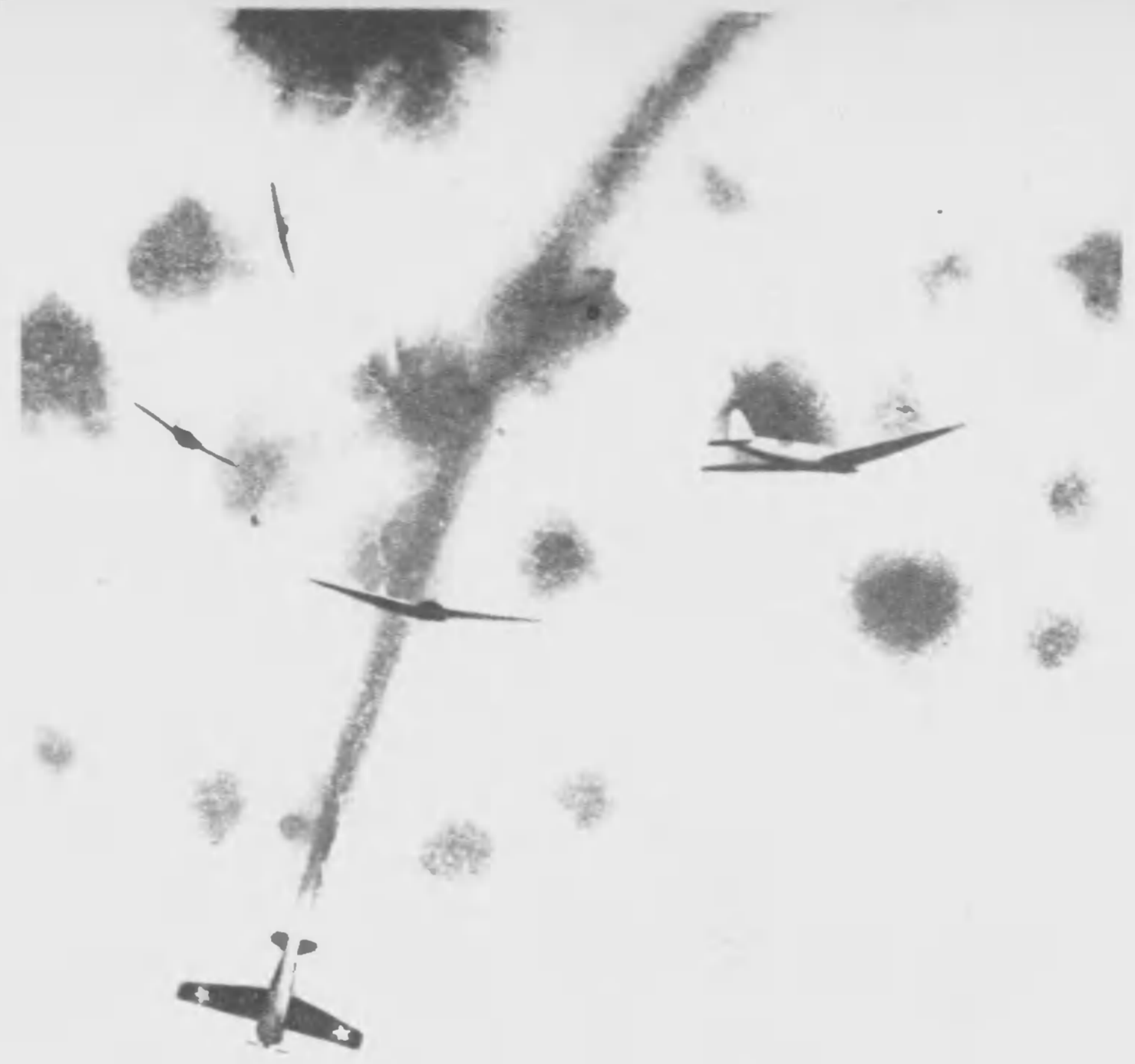
秋産二
増産、家族が
下は明け張、
七か、州が
はつて、

富士政聞



山 義郎
「お客さん、運んできてす
まません」
「なんの、客が運んできた、こ
れがほんとの富士さん、ヨイ
／＼」

寫眞週報 昭和十九年一月十二日 印刷局發行 東京郵便局認可 郵便物として扱ふ 郵便料外 送料別 毎部一錢



で蓄貯民國 うか拔ち勝 行銀海東

— 一 層 古 名 一 店 本 一

寫眞週報
(禁無斷轉載)

昭和十九年一月
十二日 印刷發行

編輯者
永田町 印刷局

印刷局
東京郵便局認可
東京郵便局大町

所 送 申	價 定
全國各地官報 週報普及部 書店・驛書店 新聞販賣店	<p>一部十錢 (送料一錢)</p> <p>外國郵送は依 る地域は送料 共一部十九錢</p> <p>▲特大號の場合は 其の郵便印拂込 金より差額を申 受けます</p>

本誌掲載の寫眞中、撮
影者名或ひは提供者名
を特記してゐないもの
は財団法人寫眞協會
の製作によるものです
又海軍関係の寫眞は
製は海軍省承認第五
二四二號です

本誌を回覧に
本誌を、隣組や職場
で回覧するなど出
来るだけ有効に利
用下さい

前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送ります。送料は
内地と同様で封封あ
るひは開封にして第
三種と明記すれば、
一部一錢です

印刷局印刷發行